



女性農業者の形成に関する研究 - 女性農業者の キャリア形成と支援を視点として -

仁平, 章子

(Degree)

博士 (学術)

(Date of Degree)

2010-03-25

(Date of Publication)

2011-07-28

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲5015

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1005015>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



氏 名 仁平 章子
博士の専攻分野の名称 博士（学術）
学 位 記 番 号 博い第 5015 号
学位授与の 要 件 学位規則第 5 条第 1 項該当
学位授与の 日 付 平成 22 年 3 月 25 日

【 学位論文題目 】

女性農業者の形成に関する研究 - 女性農業者のキャリア形成と支援を視点として -

審 査 委 員

主 査 教 授 加古 敏之
教 授 金子 治平
教 授 三十尾 修司

氏名	仁平 章子		
論文題目	女性農業者の形成に関する研究 － 女性農業者のキャリア形成と支援を視点として －		
審査委員	区分	職名	氏名
	主査	教授	加古敏之
	副査	教授	金子治平
	副査	教授	三十尾修司
	副査		
要 旨			
<p>日本の高度経済成長期に農工間の不均等成長が進み、農業部門から多くの男性労働力が農外に流出した。この結果、主婦や高齢の親夫婦が中心になって農業を行う、三チャン農業が大量に形成された。こうして女性農業従事者は、家事のみならず家族農業経営においてもより一層重要な役割を担うことが要請されるようになった。こうして女性農業者が家族農業経営内や自家農業経営外の組織で十分に能力を発揮して農業経営の発展と農村地域の活性化に貢献できる環境を整備し、支援体制を構築することが重要な課題となった。農業改良普及員や農協の営農指導員等による女性農業者の支援が実施され、農林水産省や地方自治体による農村女性に関する政策が推進された結果、女性農業者が活躍できる環境が徐々に形成されてきた。男女共同参画社会基本法が1999年に成立した頃には、女性農業者による起業も見られるようになった。しかし、先進的な事例が出現しているとはいえないものの、まだそうした事例は少なく、家族農業経営における女性農業者が個人の能力を発揮できる環境が日本の農村で十分に整備されているとはいえない。女性農業者のキャリア形成を阻害している要因を取り除き、キャリア形成を促進し、支援することの重要性は増している。</p> <p>男女平等参画社会の幕開けに伴い、女性のキャリア形成に関する研究業績は増加傾向にあるが、それらの多くは民間企業や行政機関等の組織におけるキャリア形成や、就職支援としてのキャリア形成に関する研究であり、農業分野における女性のキャリア形成に関する研究は余り見られない。</p> <p>多くの家族農業経営では、職住接近の住環境と労働環境の下で家族が一体となって農業経営に従事しており、経営主である夫や農業従事者である舅、姑等が相談にのったり、指導したりして女性農業者のキャリア形成を支援してきた。また、家族経営を取り巻く農村地域社会との密接な関係の中で、自家経営の外で女性農業者が仲間たちと起業し、組織活動に参加して活動領域を拡大することも見られるようになった。こうした家族農業経営における女性農業者のキャリア形成の特徴を念頭に、農家女性のキャリア形成に関する研究を進める必要がある。本論文では、今後の日本農業の発展や農村の活性化においてより一層重要な役割を果たすことが期待される農村女性のキャリア形成とその支援のあり方について、農村で活躍している女性農業者からの聞き取り調査に基づき実証的に研究を行った。</p> <p>第1章では、第二次世界大戦後における農村女性に関係する主要な政策と女性農業者の活動を幾つかの時期に区分してその特徴を整理した。生活改良普及員は、女性農業者を対象とした生活改善グループの結成とその指導を通して農民生活の改善と、食生活の改善に一定の成果を上げてきた。また、農業協同組合の営農指導員による生活改善グループの活動支援が進められ、JA女性会の活動に端を発した女性農業者による起業も見られるようになった。1975年にメキシコで開催された国際婦人年世界会議において、男女平等について討議されて以降、女性の地位の向上は世界の潮流となり、日本政府はあらゆる分野における男女差別の撤廃を目指すことを目標に掲げた。男女共同参画社会基本法の制定を受け、農林水産省では、男女共同参画推進室を設置して、各都道府県にその推進を図るよう通知した。こうした女性の地位向上を</p>			

氏名	仁平 章子
<p>目指す政策が推進された結果、女性農業者が社会で活躍できる環境が整備され、女性農業者による起業数や農業委員などへの登用数が増加してきたことを先行研究や農業白書の分析から明らかにした。</p> <p>第2章では、女性農業者のキャリア形成の定義と支援について整理するとともに、女性農業者のキャリア形成阻害要因を提示した。本論文では、キャリア形成を客観的な側面である職業経歴に限定することなく、家族農業経営内における職業経験と生活経験における役割と、職業および生活の経験を捉えて検討した。女性農業者の内的影響要因である意識が職業に対するコミットメントによって変化を起し、そして、新しく仕事を始めるなどの行動を起こしながら自己実現していくことを女性農業者のキャリア形成と定義した。それは、自分の生き方を自分の意志で決定し、家族農業経営内の、さらには社会の一員として自立的に生きていくために、能力や技能を発達させ、習得していくことを内容としている。また、女性農業者が家族農業経営内で能力を十分に発揮できるような意識改革を促すことや、起業や組織への参加活動が行なえるような仕組みや体制を整備することを支援と位置づけた。</p> <p>第3章では、女性農業者が新しく仕事や活動を始めた時の動機付けの類型化と支援について考察した。ハーブバーグは組織における動機付け要因には、衛生要因と動機付け要因があることを示したが、本論文では、衛生要因と動機付け要因をさらに家族農業経営内部と経営外部に分類して、動機付け要因をI型からIV型までの4つに類型化した。こうした動機付け要因の類型化を踏まえ、22名の女性農業者からの聞き取り調査を分析して、講習会の開催と参加への呼びかけ、家族農業経営内における評価とパートナーの支援、女性農業者の活動の社会的評価等が女性農業者のキャリア形成を促進してきたことを示した。</p> <p>第4章では、女性農業者のキャリア形成における、家族農業経営の人事管理という視点からパートナー効果について考察した。多くの家族農業経営では、職住接近の住環境と労働環境の下で家族が一体となって農業経営に従事しており、経営主である夫や農業従事者である舅、姑等が女性農業者の相談にのったり、指導したりしてキャリアの形成を支援することが期待される。女性農業者からの聞き取り調査から、具体的な人事管理事項として、①女性農業者を経営に参画する貴重な人的資源として明確に位置づけ、その貢献を適正に評価する、②女性農業者のこれまでのキャリアを活用する事業を展開して、女性農業者のさらなるキャリア形成を促進する、③パートナーは、女性農業者が外部メンターと接触する機会を積極的に設ける、ことが重要であることを明らかにした。</p> <p>第5章では、女性農業者が同好の士と結成した組織の活動に参加することが自家経営の発展に貢献すること、また、女性農業者自身が活動領域を拡大して、キャリアの形成に貢献していることを優良事例のケース・スタディから明らかにした。調査事例として取り上げた起業組織は、農産物の流通事業、農家レストラン事業、交流イベント企画運営事業を行なっているが、女性農業者がこうした組織活動に参加することによって、農業生産以外の分野で能力を発揮することが可能となり、さらには、農村交流活動を通じて多くの情報を入手することが可能になったことを指摘した。</p> <p>本研究の意義</p> <p>これまでのキャリア形成に関する研究は、民間企業や行政組織等の組織の中でのキャリアを如何に開発するかという業績が多く、家族農業経営のように生活面と経営面の両側面で人間関係が固定的な組織における女性のキャリア形成に関する研究蓄積は少ない。本論文は、こうした家族農業経営の特質を踏まえ、女性農業者のキャリア形成とその支援について、農村で活躍している女性農業者からの聞き取り調査から得られたオリジナル・データを用いて理論的、実証的に研究を進め、社会的に重要な知見を導いている。</p> <p>本研究は女性農業者の形成について、その環境整備と支援体制のあり方を実証的、理論的に研究したものであり、女性農業者のキャリア形成と支援のあり方について重要な知見を得たものとして価値ある集積であると認める。よって、学位申請者の仁平章子は、博士(学術)の学位を得る資格があると認める。</p>	

論文内容の要旨

氏 名 仁 平 章 子

専 攻 食料フィールド科学

論文題目 (外国語の場合は、その和訳を併記すること。)

女性農業者の形成に関する研究
ー女性農業者のキャリア形成と支援を視点としてー

指導教員 加 古 敏 之 教授

家族農業経営内における女性農業者が、経営内において十二分な能力の発揮ができ、自己実現が図れる環境と支援体制の整備が重要課題である。本論文では、女性農業者の形成という側面から女性農業者のキャリア形成とその支援について考察することを目的としている。

戦後、農林省(のちに農林水産省)は、GHQが示した意向に添い農村民主化の三大改革といわれる「協同農業普及事業」、「協同組合事業」、「農地改革」を推進した。その三大改革の中で「協同農業普及事業」と「協同組合事業」にみられる女性農業者を対象とした施策の下で、普及員およびJA営農指導員らの指導や支援によって女性農業者の活動が展開されてきた。女性農業者が、家族農業経営の中から外に出ることを躊躇い、ひたすら家族農業経営内にもって農業を支えていた家族農業経営の構造から、家庭の外に出られる環境が構築されてきた。女性農業者は、先に述べたように普及員やJA営農指導員の指導や支援によって生活改善運動を行い、生活環境の改善、衣食住と衛生問題などに取組んで一定の効果が図られた。それらを背景として、女性農業者は、農村の生活環境の変化に対する貢献や、自らの意志で活動領域を拡大しながら家族農業経営の発展にも貢献してきた。農業白書に女性農業者に関する記事が項目として取り上げられ、文中にて女性農業者の優良事例が紹介され始めたのは、平成3年度からである。その白書では、優良事例の紹介とともに、女性農業者の農業を担う役割の重要性が問われていることを一貫して指摘している。女性農業者が、職業人として農業分野でキャリアを形成しながら自己実現を果せるような支援について研究することに意義があると考え。

基幹的農業従事者数の女性割合は、昭和35年では1175万人のうち、623万5千人で53.6%だった。その後徐々に減少し平成7年度では、男女合計256万人で、そのうち女性は118万8千人、46.4%になっている。さらに平成17年度では、45.8%になっている。基幹的農業従事者数のうち女性が約半数を占めている状況は、農業就業人口とさほどの差は無いといえる。農業委員の女性割合は、平成16年度では、4.24%と昭和55年の統計からみれば増加している。また、JA正組合員割合は、平成16年度は15.59%で、昭和55年度8.82%であったが、共に増加傾向にある。

このように、女性の社会進出とともに、農業委員やJA正組合員の増加は、農業という職業を担う女性の職業人としての位置づけが明確になってきたといえるのではないか。

1975年の国際婦人年世界大会において、男女差別撤廃の方向性が示され、我が国でも男女共同参画社会の実現に向けた取り組みがスタートした。農林水産省においても男女共同参画社会推進室を設置し、男女共同参画社会の実現に向けた取組を行っている。1992年には、新しい食料・農業・農村政策が示され、女性の「個」としての地位の向上を図ることが明記された。さらに仕事の役割分担の明確化についても同じく明記され、農家の概念から経営体としての理念の転換を図ることが示された。

農林水産省では、これらを実現するために、農山漁村の女性に関する中長期ビジョン懇談会を設け、「2001年にむけた新しい農山漁村の女性」と題した報告書をだした。そこでは、①農山漁村型ライフスタイルの確立の必要性和、その実現に向けて女性農業者の活躍に期待が掛かっていること、②女性農業者の職業人として、位置づけを明確化にすることが述べられている。

研究の枠組みは、まず、女性農業者個人への支援、次に家族農業経営のなかで、構成員であるパートナーの支援、組織活動参加による支援の3点である。

序章では、本論文の課題と方法を述べる。次いで第1章では、女性農業者が、キャリア形成をしながら職業人としての活動を行っていることと、その支援について本論文の研究背景を整

(氏名： 仁平章子 NO. 2)

理した。戦後から1974(昭和49)年までの女性農業者の活動を市田と金田が、整理し時期区分したことを受けて、1975(昭和50)年以降の女性農業者の活動を時期区分した。

第2章では、キャリア形成と支援についての定義を行い、女性農業者のキャリア形成阻害要因を提示した。また、キャリア形成の支援とは何かについて述べた。

第3章では、女性農業者が新しく活動や仕事をスタートさせる時、動機付け要因が大きく作用しているのではないかと仮定した。女性農業者への聞き取りから動機付けの類型化を行い、女性農業者のキャリア形成支援の手掛かりを示した。

第4章では、家族農業経営の人事管理として、構成員の働きを適正に評価することがキャリア形成の支援になることを述べる。家族農業経営に従事する女性農業者に対する支援の一つには、家族即ちパートナーの顕在化と機能化が不可欠であり、その効果について検証する。

第5章では、女性農業者が、自家農業経営を離れて同好の士と結成する組織に参加することによって、自家農業経営に貢献するとともに、農業以外の能力を発揮することが可能になることをダイナミック・ネットワークの理論を援用しながら考察した。

終章では、本論の要約、結論と今後の課題について述べる。

女性農業者のキャリアの形成の支援について整理し検討した。女性農業者は、個人の動機付け支援、パートナーによる支援、組織活動参加による支援によって、農業を職業として、女性農業者が、個人の能力を十二分に発揮しながらキャリアを形成し、さらに自家農業経営に貢献していることが検証された。これらから支援体制を一般化するための方向付けを導き出すことができるのではないかと考えている。

しかし、対象とした事例が家族農業経営を焦点としており、法人化が推進されている今日、本論文では、法人に位置づけられた女性農業者について言及していない。一つ目は、普及員の女性農業者支援体制の新たな構築が必要である。二つ目は、今後は、農業者自身で解決する方策を模索しなければならない、普及員依存の体質の転換と意識の改革という新たな課題が存在する。三つ目は、タイムリーな支援の時期が明確に提示できるような検証をすることが求められる。個々に農業経営状況は違い、支援についての一元的な提言は困難かもしれない。今までは普及員の指導や、JA営農指導員のコミュニケーションを緊密にとることによりタイムリーな助言や支援を受けられることになっていたことを検証した。キャリア形成には、個人への支援、パートナーによる支援、組織活動に参加することによる支援に効果があることが明らかになったが、効果的な支援体制や支援の時期などについては、さらに研究を深めることが今後の検討課題である。四つ目は、事例を分析したが、この事例を一般化し広く広報するためのプログラムの構築や、広報の方法が課題である。五つ目は、農林水産省男女共同参画推進室が重点項目として取り上げている、家族経営協定の締結とその効果について本論文では、深く追求することが出来なかった。家族農業経営における構成員は、家族であるがゆえに暗黙の了解で行われていることをわざわざ文書化することに拒否反応を示している実態も存在する。しかし、今後の農業を展望するとき、家族農業経営のあり方としては、労働条件や役割分担を明確化し文書化しておくことは構成員のやる気を喚起することに重要な役割を果たすことと考えている。今後さらに家族経営協定とその効果について考察していくこととしたい。また、制度的支援である家族農業経営協定の締結効果について、検討することが出来なかったことは、今後の検討課題としたい。